

⑥ 生活産業グループ

生活産業グループは、原料調達から消費市場に至るまでの幅広い領域で、食料品、衣料品、紙・包装材、セメント・建材、医療材料などの商品を取り扱い、様々なサービスを提供しています。

当第 3 四半期連結累計期間の四半期純利益（三菱商事(株)に帰属）は 325 億円となり、前年同四半期と比較して 3 億円の減少となりました。これは、前年同四半期における株式減損の反動増などがあったものの、食料関連事業での取引利益・持分利益の減や、資材関連子会社における取引利益の減などによりほぼ横這いとなったものです。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産及び負債・資本の状況

当第 3 四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より 176 億円減少し、10 兆 9,004 億円となりました。これは、親会社などでの上場株式の含み益増加などがあったものの、需要低迷に対応した棚卸資産の減少があったことなどによりほぼ横這いとなったものです。

負債は、前連結会計年度末より 4,163 億円減少し、7 兆 8,131 億円となりました。これは、運転資金負担減などの資金需要減少に伴い、有利子負債が減少したことによるものです。

また、有利子負債総額から現金及び現金同等物を控除した有利子負債額（ネット）は、前連結会計年度末より 4,260 億円減少して 3 兆 1,252 億円となり、有利子負債額（ネット）を当第 3 四半期連結会計期間末の株主資本合計で除した有利子負債倍率（ネット）は 1.1 倍となりました。

株主資本は、前連結会計年度末より 4,067 億円増加の 2 兆 7,901 億円となりました。これは、四半期純利益の積み上げに加えて、上場株式の含み益の増加に伴う未実現有価証券評価益の増加や、対豪ドルの円安に伴う為替換算調整勘定の改善があったことなどによるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第 3 四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ 2,495 億円減少し、9,656 億円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第 3 四半期連結累計期間において、営業活動により資金は 6,146 億円増加しました。これは、資源関連子会社などの営業収入及び資源関連を中心とした投資先からの配当収入が堅調に推移したことに加え、親会社やメタルワンなどで運転資金負担の減少に伴い資金回収が進んだことにより、資金が増加したものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第 3 四半期連結累計期間において、投資活動により資金は 1,692 億円減少しました。これは、主に海外資源関連子会社などにおいて設備投資に伴う支出があったことにより、資金が減少したものです。

以上の結果、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローの合計であるフリー・キャッシュフローは 4,454 億円の資金増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第 3 四半期連結累計期間において、財務活動により資金は 7,055 億円減少しました。これは、親会社において配当金の支払いがあったことに加え、運転資金負担の減少に伴い借入金の返済を進めたことにより、資金が減少したものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当年度の連結業績予想につきましては、平成 21 年 10 月 30 日公表の連結業績予想から変更はありません。

(注意事項)

本資料における業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

連結子会社であった MC GLOBAL VOYAGER FUND LIMITED は連結範囲における重要性が低下した為、非連結子会社としております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

法人税等は、当四半期の属する連結会計年度における、税効果を考慮した見積もり税率に基づき算出しております。